

「公共的な空間をつくる私たち」教材ガイド

本教材の趣旨

本教材は、日本語を母語としない学習者にも学びやすい教材を目指して作成されました。社会科「公共」領域のいくつかのトピックについて、日本語を母語としない学習者が「読んでわかる」教材となることを目指して作成されています。

そのため本教材では「**やさしくざっくり**」を心掛けました。記述に際しては論理構造を明確化・簡素化し、表現においては複文を避けた平明な日本語を基本とし、適宜、ふりがなや英語も交えています。

学校現場での使用方法としては、**授業の予習復習として**本教材を使うことができます。また、本教材を**他言語に翻訳して**使用することもできます。単文表現で構成されていますので、Google 翻訳や DeepL などの機械翻訳サイトでも、翻訳がなされやすいかと思われます。

各教材の構成ですが、教材の冒頭で「**本日のテーマ**」「**キーワード**」を提示し、本文は**一問一答形式**によって記述されています。最後部には、学習内容のまとめとして、また、自身の考えを表現するものとして、「**記述コーナー**」を設けてあります。本教材は「やさしくざっくり」を旨としておりますので、本教材で扱われていない内容については、適宜、授業の中で取り上げて頂ければ幸いです。

本教材の内容

本教材では、**公共空間**に焦点をあてます。扱われている具体的なテーマは以下の通りです。個人的な話題から公共的な話題へと広がっていくような流れで記述しています。第1回、第2回では若者の発達課題、キャリア発達を扱っています。日本では、良くも悪くも子どもに夢を語らせることが好きだと言われます。こうした日本的なキャリア教育とは異なる背景を持つ学習者たちと、**発達課題やキャリア観を語りあう**ことも有意義かと思われます。第3回以降では公共空間の成り立ちについて解説しています。内容が退屈な場合には、「なぜルールが必要なのか」など、記述コーナーの内容に沿って**議論する**などしてもよいかもしれません。一点、注意が必要なのは、コラムの扱いです。コラムでは「日本人の歴史意識」について、丸山真男の議論を紹介しています。こうした国民性に関する議論は「公共」にかかわる議論の知識として知っておくことが重要です。他方で、行き過ぎると様々な国のイメージに対する**ステレオタイプの形成**に繋がります。教材にも書き込みましたが、こうした国民性に関する議論は知識として持ちながらも、同時に、**自分の視点から確かめさせる**ことも重要です。

「公共的な空間をつくる私たち」

- 第1回 青年期の発達課題がわかる
- 第2回 キャリア発達がわかる
- 第3回 キャリアについて考えよう
- 第4回 人格の尊重がわかる
- 第5回 公共空間がわかる
- 第6回 日本人の歴史意識
- 第7回 公共的な空間における人間としての在り方生き方